アピール

すべての子どものゆたかな学びを保障する
自主的・組織的な教研活動の充実を！

わたしたちは、第 73 次教育研究全国集会を北海道の地で開催し、全国各地からのべ 8,000 人の参加者が集いました。悪天候により移動が困難ななか、４年ぶりに対面開催で行い、子どもたちの姿をもとに議論を深めることができました。

集会のオープニングでは、「ムックリとトンコリ」という楽器演奏と舞踊が披露されるとともに、北の大地で古くから自然とともに暮らしてきたアイヌ民族の文化や、民族とジェンダーが交差する複合差別と闘ってきた歴史について語られました。全体集会では、能登半島地震に関して会場で行った日教組災害救援カンパには 111,783 円のご協力をいただきました。また、被災地単組から子どもや組合員の苦悩、被害状況について緊急報告があり、参加者全員で子ども・教職員に寄り添いながら、全国連帯で教育復興支援にとりくんでいくことを改めて確認しました。さらに、記念講演では、誰も排除しない、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現にむけて、多様性を認め合いながら、共に生きることについて考える機会となりました。

分科会では、教職員不足が深刻となり、厳しい勤務環境にもかかわらず、子どもに寄り添い、職場の実態にもとづいた実践が報告されました。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携、ICT をツールとして活用した実践、「学校の働き方改革」の職場での改善例など、分会、組織教研と討議を積みあげるなかで浮かびあがる実態や課題について、熱気あふれる討議が行われました。

特別分科会では「アイヌ民族の文化・歴史を知り、子どもたちにどう伝えるか」というテーマで講演とシンポジウムを行いました。アイヌのことを学ぶとき、歴史認識から出発することが大切であること、学校のあらゆる教科や場面で学習できることなどが、様々な立場で熱く語られました。

一人ひとりの子どもが、将来に対する夢や希望、自己肯定感、人権感覚をもち、自分の生き方を問い続ける学びが保障される教育の実現のために、子どもたちの育ちや学びについて語り合うことは重要です。これからも、平和・人権・環境・共生を柱に、憲法・子どもの権利条約の具現化と民主教育の確立にむけ、教育実践をよりいっそう充実・発展させていきましょう。

2024 年 1 月 28 日

日教組第 73 次教育研究全国集会